

北海道北部におけるヒヨドリの繁殖期の分布

藤巻裕蔵

〒072-0005 美瑛市東4条北2丁目6-1

Distribution of the Brown-eared Bulbul (*Hypsipetes amaurotis*) in Northern Hokkaido during the Breeding Season

Yuzo FUJIMAKI

Higashi 4, Kita 2-6-1, Bibai, Hokkaido, 072-0005 Japan

Abstract. Distribution of the Brown-eared Bulbul (*Hypsipetes amaurotis*) in Northern Hokkaido during breeding seasons is described based on results of line and spot censuses and records from the ornithological literature. Data was obtained from 669 quadrats (approximately 4.5 km X 5 km). Of these, brown-eared bulbuls were recorded from 285 quadrats (42.6%). The proportion of quadrats in which brown-eared bulbuls were recorded decreased from the southern part to the northern part and the western part to the eastern part. These proportions were low in areas of low warmth index, and high in areas of high warmth index. Temperature is considered to be one of the major factors affecting the distribution of this species during the breeding season.

はじめに

ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* は森林性の留鳥である (日本鳥学会, 2012)。北海道ではほぼ全域に分布するが、北部ではヒヨドリの記録が少ないことは、探鳥会でこの種の観察例が少ないことなど経験的に知られている。また、このことは第2回自然環境保全基礎調査 (環境庁, 1979) や種の多様性調査・鳥類繁殖分布調査報告書 (環境省自然環境局生物多様性センター, 2004) の分布図からもうかがえる。これらの報告以外では、ヒヨドリの北海道北部における分布を明らかにした文献は見当たらない。藤巻 (2004) は北海道中央部・南東部におけるヒヨドリの生息状況について調べ、東部では少なくなることを明らかにしたが、北部についてはデータが少なかつたため触れていない。

その後、論文や各種報告書、野鳥の会の支部報やホームページなどからヒヨドリを含む各種の記録を収集し、北部についてもだいぶデータが蓄積されてきたので、1976 年以來行ってきた鳥類の生息状況の調査結

果とこれらの収集した記録に基づいて北部におけるヒヨドリの繁殖期の分布を明らかにしたい。

調査地および方法

調査した地域は、北海道の北緯 43 度 20 分 (ほぼ厚田, 美瑛, 富良野, 上土幌, 幌平, 足寄, 蝶湾, 標茶, 風蓮湖北部を結ぶ線) 以北である。

5 万分の 1 の地形図 (日本測地系に基づく地形図) を縦横それぞれ 4 区分した区画 (約 4.5 km × 5 km) を設定し、304 区画で調査した。調査を行ったのは、1976 ~ 2018 年の 4 月下旬 ~ 7 月下旬で、各区画に設けた 2km の調査路を約 2 km / 時で歩きながらヒヨドリを記録した。一部の区画では複数の調査路を設けたので、調査路は全体で 344 である。調査時間帯は 4:00 頃から 8:00 頃までである。また、未調査区画における記録を補完するため、73 区画で上記の調査と同じ期間に定点調査を行った。この調査では、区画内の任意の場所で、日中に 20 ~ 30 分間の

観察を行った。

このほか、論文や各種報告書（阿部ほか，1970；黒田ほか，1971；松尾・高田，1974；正富，1976；佐藤・石川，1981；橋本，1982，1987，1993，1996，2007；川辺・阿部，1982；川辺，1985，2008，2009；中川・藤巻，1985；松本ほか，1986；小杉，1988，1989，1992；磯，1987，1988，2005，2007，2008；正富・富士元，1987；旭川市，1991；高田，1991；日野・中野，1992；奥田・林田，1993；北海道，1994；北海道環境科学研究センター，1994，1996；富川ほか，1995；島田，1996；筒舘，1998；道川ほか，1999；今野・藤巻，2001；高田，2001；池田 2005；森，2010；嶋崎 2006；嶋崎ほか 2014；宮本 2017）の調査結果，日本野鳥の会支部報（道北支部）・ホームページ（オホーツク支部，<http://www.wbsj-okhotsk.org/>）や未発表の個人の記録も用いた。これらの記録からは 292 区画の記録が得られ，記録が得られた区画は全体で 669 である。各区画で 1 か所・1 回でもヒヨドリが記録されていれば，その区画に生息しているとした。

上記の 344 か所の調査路で得られた結果だけを用い，温量指数（暖かさの指数）とヒヨドリの出現率との関係も明らかにした。ここで出現率は，調査路総数に対するヒヨドリが 1 回でも観察された調査路数の割合を百分率で示した値である。なお，温量指数のデータは，北海道立総合研究機構環境科学研究センターから提供されたものである。

結果と考察

記録が得られた 669 区画のうち，ヒヨドリが記録されたのは 285 区画，42.6% である。しかし，分布は一様ではなく，分布図を見ると，ヒヨドリが記録された区画は南の方が多い（図 1）。しかし，記録がある区画数が地域により異なっているので，一次メッシュ（1973 年行政管理庁告示第 143 号によって定められ，4 桁の数字で示される。1/20 万地形図に相当する）ごとに記録のある全区画数に対するヒヨドリが記録された区画数の割合をしてみる（一部は隣の一次メッシュと合併：6644 + 6645 と 6840 ~ 6842）。この割合は南から北に，また同じ緯度帯では西から東になるにしたがって小さくなる傾向があった（図 2）。ただ，6840 ~ 6842 における割合は，その南の 6741 と 6742 における割合よりやや高かった。



図 1. 北海道におけるヒヨドリの繁殖期の分布（1976 ~ 2017）。円は 4.5 × 5km の区画を示す。● = 観察された区画，○ = 観察されなかった区画，• = 未調査区画。

Fig. 1. Distribution of brown-eared bulbul *Hypsipetes amaurotis* during the breeding season in Hokkaido (1976-2018). Circles represent 4.5 x 5.0 km quadrates. ● = quadrats with birds detected, ○ = quadrats with no birds detected, • = quadrats with no census.

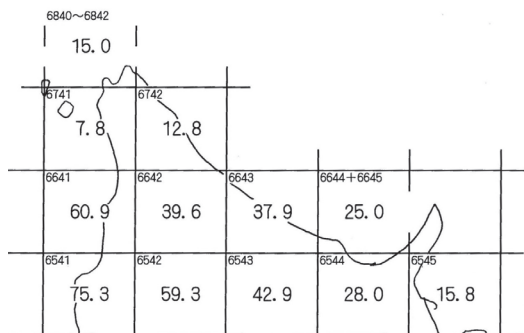


図 2. 一次メッシュ（左上の 4 桁の数字はメッシュコード）ごとのヒヨドリが観察された区画の割合。

Fig. 2. Proportion of quadrates in which brown-eared bulbul *Hypsipetes amaurotis* were observed by first-order meshes (Figures at above-left indicate mesh-code).

しかし，ヒヨドリは礼文島では冬鳥とされているので（宮本，2017），繁殖期には記録があっても観察される機会は少ないと思われ，6840 ~ 6842 の 15.0% という値は過大になっている可能性がある。北海道北部や東部でヒヨドリが少ないことについては，すでに Brazil (1991) が指摘しており，藤巻（2004）は西から東への減少傾向について定量的に明らかにした。今回は南から北への減少傾向を定量的に明らかにしたことになる。

分布図（図 1）を見ると，上記の南北，東西の割合の変化以外に，ヒヨドリが山地で少なくなっている。すなわち，6542 の南東部と 6543 の南西部は大雪山

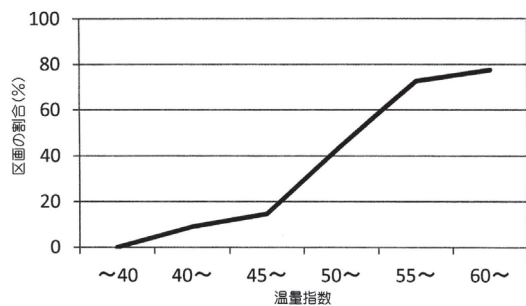


図3. 温量指数と出現率との関係。

Fig. 3. A relationship between warm index and occurrence rate (No. of transects of occurrence/No. of transects surveyed) x100).

系, 6544 の南西部は阿寒山地, 6645 は知床半島で, 調査してもヒヨドリが観察されなかったことを示す「○」が多い。このようにヒヨドリは南北, 東西の地理的な違いのほか, 標高の違いによっても生息状況が変化するようにである。北海道では温量指数は南から北, 西から東になるにしたがって, また標高が高くなるにしたがって小さくなるので, 地理的な違いと標高による違いを統一的に見るため, 温量指数とヒヨドリが記録された区画の割合との関係を見てみる。温量指数を 40 未満, 40 ~ 45 未満, 45 ~ 50 未満, 50 ~ 55 未満, 55 ~ 60 未満, 60 以上に区分し, 各区分ごとにヒヨドリが記録された区画の割合を見ると, 温量指数が大きくなるにしたがってこの割合が高くなった (図3)。

ヒヨドリ属の鳥類はアフリカ, 南・東南アジアの熱帯に分布し, そのうちの 1 種であるヒヨドリも南方系の鳥類で, サハリンや国後島では迷鳥なので (Nechaev & Gamova, 2009), 北海道が分布北限・東限に近いと考えられる。そのため, 北海道北部や東部ではあまり生息しなくなるとされる。また, 鳥類は冬の低温のときに羽毛を膨らませる姿勢とるが, このような姿勢がハシブトガラやシジュウカラでは $-13 \sim -14^{\circ}\text{C}$ から, ヒヨドリと同大のアカゲラでは -15°C から見られ始めるが, ヒヨドリでは $-6 \sim -10^{\circ}\text{C}$ から見られ始める (藤巻, 2012)。このようなことから, この種が南方系の鳥類であることがうかがえる。

鳥類は恒温動物で, 生息状況は気温に影響されることが少ないと考えられているが, 北海道におけるヒヨドリの繁殖期の生息状況を見ると, この種の分布は少な

からず気温の影響を受けていると言えるであろう。

引用文献

- 阿部永・小林恒明・石城謙吉・太田嘉四夫, 1970. 北大中川地方演習林鳥類調査報告その1. 北海道大学農学部演習林研究報告, 27: 69-77.
- 旭川市, 1991. 自然保護調査報告書総集編, 旭川の動・植物一目録・解説. 旭川市. 旭川. 298pp.
- Brazil, M. A., 1991. The Birds of Japan. Christopher Helm. London. 466pp.
- 藤巻裕蔵, 2004. 北海道中部・南東部におけるヒヨドリの繁殖期の生息状況. Strix, 19: 1-9.
- 藤巻裕蔵, 2012. 低温での鳥類の姿勢. 山階鳥類学雑誌, 44: 27-30.
- 橋本正雄, 1982. 釧路管内鳥類観察記録(2), -1971-1980-. 釧路博物館紀要, 9: 9-18.
- 橋本正雄, 1987. 北海道東部, 阿寒湖およびその周辺の鳥類センサスについて. 釧路市立博物館紀要, 12: 7-22.
- 橋本正雄, 1993. IX. 阿寒川水系の鳥獣. 釧路市立博物館, 阿寒川水系総合調査報告書: 131-150. 釧路市立博物館. 釧路.
- 橋本正雄, 1996. 釧路管内鳥類観察記録(4) - 1981 ~ 1990 -. 釧路市立博物館紀要, 20: 13-22.
- 橋本正雄, 2007. 釧路支庁管内鳥類観察記録(6) - 1991 ~ 2000 -. 釧路市立博物館紀要, 31: 11-19.
- 日野輝明・中野繁, 1992. 北海道北部の落葉広葉樹林における繁殖期の鳥類群集. 北海道大学農学部演習林研究報告, 49: 195-200.
- 北海道, 1994. 「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書, 道東圏域(平野・海岸部). 北海道. 札幌. 292pp.
- 北海道環境科学研究センター, 1994. 「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書, 道北圏域17地域・道央圏域2地域. 北海道環境科学研究センター. 札幌. 258pp.
- 北海道環境科学研究センター, 1996. 「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書, 道東圏域(山岳部)12地域. 北海道環境科学研究センター. 札幌. 322pp.
- 池田亨嘉, 2005. おもに十勝地方で観察された鳥類 1999 ~ 2004 (2). 帯広百年記念館紀要, (23): 9-24.
- 磯清志, 1987. 上川町産鳥類目録. 層雲峡博物館研究報告, (7): 9-20.

- 磯清志, 1988. 大雪山黒岳総合調査報告, 黒岳の鳥類, 上川町の自然, (13): 1-15.
- 磯清志, 2005. 愛山溪(安足間川流域)の鳥類, 層雲峡ビジターセンター研究報告, (25): 1-16.
- 磯清志, 2007. 天塩川上・中流域の鳥類, 層雲峡ビジターセンター研究報告, (27): 17-28.
- 磯清志, 2008. 浮島湿原の鳥類相, 上川町の自然, (20): 23-32.
- 川辺百樹, 1985. 大雪山国立公園, 原始ヶ原湿原の鳥相. ひがし大雪博物館研究報告, 7: 43-48.
- 川辺百樹, 2008. 大雪山国立公園鳥類目録. ひがし大雪博物館研究報告, 25: 1-49.
- 川辺百樹, 2009. 上土幌町鳥類目録. ひがし大雪博物館研究報告, 31: 1-16.
- 川辺百樹・阿部永, 1982. 十勝川源流部原生自然環境保全地域の鳥類. 日本自然保護協会編, 十勝川源流部原生自然環境保全地域調査報告書: 247-261. 日本自然保護協会, 東京.
- 環境庁, 1979. 第2回自然環境保全基礎調査, 動物分布調査報告書(鳥類). 環境庁, 東京. 560pp.
- 環境省自然環境局生物多様性センター, 2004. 種の多様性調査・鳥類繁殖分布調査報告書. 環境省自然保護局生物多様性センター. 富士吉田. 343pp.
- 黒田長久・白附憲之・千羽晋示・小笠原暁・由井正敏, 1971. JIBP 主調査地, 大雪山地域の動物相調査報告 III. 大雪山の鳥類調査(1970年7月). 陸上生態系における動物群集の調査と自然保護の研究, 昭和45年度研究報告: 23-50.
- 小杉和樹, 1988. 利尻島の鳥. 利尻研究, (7): 43-54.
- 小杉和樹, 1989. オタドリ沼の鳥. 利尻研究, (8): 47-60.
- 小杉和樹, 1992. 利尻島の鳥類. 北海道の自然と生物, (6): 42-49.
- 今野怜・藤巻裕蔵, 2001. 繁殖期における利尻山の鳥類. 帯広畜産大学研究報告, 22: 125-133.
- 正富宏之, 1976. 第二章鳥類調査. 北海道編, 大雪山系自然生態系総合調査中間報告(第2報): 195-222. 北海道. 札幌.
- 正富宏之・富士元寿彦, 1987. 北海道北部サロベツ原野の鳥類相. 専修大学北海道短期大学紀要(自然), 20: 253-280.
- 松本光二・黒田弘章・水間秀文, 1986. 名寄の鳥類とその生息環境. 名寄市郷土資料報告, 1: 7-18.
- 松尾武芳・高田勝, 1974. 根室管内観察鳥類リスト. 根室自然保護教育研究会49年集録, 25-43.
- 道川富美子・丹羽真一・渡辺修・道川弘・渡辺展之, 1999. 北海道北部, 霧立峠周辺の針広混交林の鳥類相と植物相. 土別市博物館報告, 17: 47-59.
- 宮本誠一郎, 2017. 礼文島の鳥類②. 利尻研究, (36): 1-12.
- 森信也, 2010. 知床五湖, ルンジャおよび知床岬における鳥類観察記録2003-2009. 知床博物館研究報告, 31: 15-24.
- 中川元・藤巻裕蔵, 1985. 遠音別岳原生自然環境保全地域における鳥類. 環境庁自然保護局編, 遠音別岳原生自然環境保全地域調査報告書: 79-404. 環境庁自然保護局, 東京.
- Nechaev, V. A. & T. V. Gamova, 2009. Birds of Russian Far East (An annotated catalogue). Dal'nauka, Vladivostok. (In Russian).
- 日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会. 三田. 438pp.
- 奥田篤志・林田光祐, 1993. 北海道北部の針広混交林における鳥類群集の季節変化. 北海道大学農学部演習林研究報告, 50: 219-227.
- 佐藤正三・石川信夫, 1981. 大雪山勇駒別及び姿見付近の鳥類調査. 北海道教育大学大雪山自然教育研究施設研究報告, 16: 15-27.
- 嶋崎太郎, 2006. 美幌町内の公園における繁殖期の鳥類相. 美幌博物館研究報告, (13): 59-66.
- 嶋崎太郎・川崎康弘・町田善康, 2014. 美幌町鳥類目録. 美幌博物館研究報告, (21): 27-62.
- 島田明英, 1996. 美幌町鳥類調査(1996年). 美幌博物館研究報告, (4): 1-18.
- 高田勝, 1991. 根室支庁管内鳥類リスト. 根室市博物館開設準備室紀要, 5: 1-19.
- 高田令子, 2001. 根室支庁管内鳥類リスト. 根室市博物館開設準備室紀要, 15: 95-114.
- 富川徹・小畑淳毅・福岡将之, 1995. 礼文島における春季(1994)の鳥類相. 利尻研究, (14): 11-16.
- 筒淵美幸, 1998. 十勝地方の中部と北部における鳥類センサス. 上土幌町ひがし大雪博物館研究報告, (20): 79-89.